

福祉民生常任委員会行政視察報告

福祉民生常任委員会は、令和元年10月16日から18日の日程で、長崎県大村市「地域と連携した子育て支援の取り組みについて」及び福岡県古賀市「高齢者福祉に関する取り組みについて」、本市に生かすために行政視察を行いました。

大村市では、子育てに大変力を入れており、こども未来部を創設し、「近くに子育てを助けてくれる人や相談相手がない」などの声が寄せられる中「大村市こども未来館・おむらんど」が誕生しました。

本市においては、子育ての一環として上毛天然ガス跡地にあんなかスマイルパークを建設中であり、建屋はどんなものになるのか、中にはどんなスペースができるのか、広場は、遊具は、子供たちは安心して遊べるのかと市民の注目は集まっています。

施設見学を通じ、利用料を徴収しても、高額な遊具ではなくても、

アイデアを絞って市民の望んでいるものであれば利用してもらえると改めて強く感じさせられましたので、常任委員会としても、視察内容を踏まえ注視し提言していかねければならないと考えます。

古賀市は、地域包括ケアシステムを推進しており、「最期まで安心して暮らせるまちづくり」をテーマに古賀市独自の事業を展開しており、本市においても安中らしい、安中独自の事業展開をしていかなければならないと考えます。



高齢者福祉について（古賀市）

経済建設常任委員会行政視察報告

11月23日から25日までの日程で、和歌山県橋本市の「企業誘致施策」についてと、香川県坂出市の「さかいでブランド認定制度」について行政視察を行いました。

橋本市は、大阪府のベッドタウンとして発展してきたため、製造業等の雇用場が少なく、若者の流出が課題でした。

工業団地整備は和歌山県と連携し大規模未利用地を所有していたUR都市機構と三者で協議を進め、平成19年度より企業団地紀北橋本エコヒルズを造成し、用地の9割が分譲済となりました。現在も雇用増・地域経済活性化のため、新たに南海電気鉄道が所有する大規模未利用地を県・市と三者で事業着手しています。

和歌山県・橋本市・民間企業が連携し、積極的に企業誘致を進めている点が大変参考になりました。坂出市のブランド認定制度は創設当初は市が事業を進めていまし

たが、認定事業者同士の横の連携による民主導のブランド価値向上に向けた取り組みが必要であると考え、認定事業者連絡協議会を発足しました。協議会では、販路開拓や宣伝、フェアの開催等様々な活動で大きな成果を上げています。

課題は原則すべてを認定しているため、商品評価が異なるものが混在しイメージ作りが難しい点が挙げられていました。安中市にある多くの特産品の活用に向けた大変参考になる視察となりました。



企業誘致について（橋本市）